

森の大学

2008.04.27

平成 19 年度 森の大学 in 日田市

- 【実施】 平成 20 年 4 月 27 日(日) 於 大分県日田市千倉(水の森)
水の森保全活動(植樹・下草刈り・遊歩道整備), 森林環境講座
- 【参加】 28 名: 大学生(福岡から 11 名) 一般(福岡から 17 名)
その他(水の森保全活動参加者は約 60 名)
- 【内容】 水の森保全活動(椎茸菌打ち、植林、山菜獲り、東屋保全)
森の大学山林保全活動(植樹・東屋保全+遊歩道整備・ミニ環境講座)
- 【指導】 水の森保全活動全般(財津)
環境講座(駄田井)
森の大学全体指導(須本)
- 【日程】 10:00 大分県日田市千倉
水の森着
10:30 水の森保全活動
11:00 森の大学山林保全
活動+ミニ環境講座
12:30 昼食
14:00 水の森解散
日田市見学 筑後川視察
17:10 福岡市着 解散



【概要】

森の大学は平成 12 年環境実践大学森林環境講座の実践および体験活動の場として開校されました。大学生や一般を対象とした体験交流学習の場としてばかりではなく、子ども環境サミットや熟年層を対象にした研修などを受入実施しています。活動拠点は大分県日田市(旧大山町)にありますが、筑後川流域の各所を繋ぎながら実施しています。

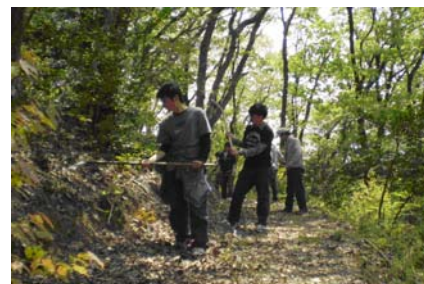
環境実践大学では、森の大学を正式に平成 13 年に開校式を行いました。発足当初から地球温暖化と水資源をテーマにしてその取り組みを行っています。現在、水源地森林、都市環境、生活空間、食や福祉に関してもその取り組みを行い総合的な観点で環境を通じた交流と環境実践を行いそして提言しています。

ところで、今回の「森の大学」は平成 20 年 4 月の開催で 11 回目となり、実は今回の実施場所の「水の森」の活動は 10 年目にはいり、これからの 10 年をどのような活動に展開するか議論をしている所です。筑後川流域連携倶楽部関係者に環境実践大学も参加して新たな方向性や相乗効果の得られる持続可能な方策を検討する時期に入っています。



森の大学の今回の活動は、水の森保全活動の手伝いとして、子ども達や一般対象に植樹や椎茸の菌打ち、植林、山菜獲りなどを行いました。その後、森の大学の活動目的である山林保全体験として、森の大学で 3 年前から整備を進めている遊歩道に大鎌を手にもっかい、下草刈りや遊歩道整備、東屋の整備に汗を流しました。

この「水の森」や旧大山町の山林をフィールドに保全活動や竹の伐採などの体験と共に、環境評価(河川)、水源地問題などに取組むための基礎学習、地域住民や地域の活動家との交流や意見交換を盛んに行っていますが、今回は日帰りということもあり、活動を絞りこみ、その密度を濃くして新緑鮮やかな水の森の一日楽しみました。



「大鎌で下草刈り」をメインの保全活動とし、「樹木の生育状況把握」や「樹木名の確認

や特徴」、「松に関する基礎学習」、「地球温暖化防止への植林の効果」などを行い、頂上付近の阿蘇望塾（東屋）では、駄田井教授による「水の森」の意義や課題点、筑後川流域と環境課題との関連などの講義が行われ、次いで、財津さんより森林保全に関する講義がなされました。

時間が許せば、植物の専門家や野鳥の専門家など多くの達人が参加されていたので、学生達をそれぞれの達人に任せ、散策しながら学ぶことが出来たのだが、これは例年、宮島寛九州大学名誉教授や矢幡教授に教鞭をとって頂いていた内容だったので、今回出来ないのは残念であったが、不十分ながら事務局が担当して行いました。20年度も少人数でゆっくりとそしてじっくりと「森の大学」事業を予定しています。



次回は地域の方々との交流も合わせて行っていく予定です。

作業の後、参加者90名弱と交流しながら、だご汁、山菜の天ぷらも満喫し、かっぱマネーの利用（日田市で温泉、ラムネ工場見学など）筑後川視察と一日を過ごして、帰路につきました。



次回は環境評価と地域との交流そして、水源地の課題について大いに議論しましょう。

環境実践大学 事務局



「森の大学」大学生森林研修 参加者感想

2008年4月27日

(1) 参加前と参加後の印象の違い

- ・ 来る前は子どもがたくさん参加しているイメージと、参加者同士のコミュニケーションのある企画なのかなと思っていた。けれど、子どもは少人数で、保全作業のようなものだった。
- ・ 参加者としての姿勢だったので、準備はしなかった。専門家の話やワークショップをイメージしていた。しかし実際はボランティア活動そのもので、非日常的な体験ができ、満足している。
- ・ 行く前は、シイタケのこととか楽しいことばかりを考えていた。でも、実際に行っているいろいろなことをやってみると、自然の中で植林や草刈りをやることによってきつい面もあったが、とてもすがすがしい気分で、楽しくできた。ご飯のおいしさに感動した。
- ・ 来る前の印象は、森林の中に入って苗を植えることだったり、しいたけをとるなどだった。一番のメインはシイタケ獲りなど、けっこう山菜などを採るのがメインだと思っていた。実際にしたことは苗木を植えることだったり、草刈りだったので、思っていたより労働の面が多かった。しかし、人数の多さもあったせいか、する作業があまりなかったと感じた。
- ・ 山を登りながらシイタケを採ったり自然と触れ合ったりして、最後に採った山菜でバーベキューをするイメージだった。
- ・ そんなに山奥ではないところで植林活動を行う、何百本と植えるイメージ終わった後にシイタケをメインにバーベキュー。
- ・ 最初にシイタケのイメージしかなかった。現地に行って本当に自然のイメージが強く残った。
- ・ 参加する前の印象は、植林、菌打ち、野鳥観察を全員で順番通りにしていくものかと思っていました。場所は山の麓か中腹あたりで、人数は小規模かと思っていました。参加した後の印象として、地域のことを思って活動をされている方が思っていたよりも多かったということです。ただ思うだけではなく、それを行動に出している姿は自分の見習わなければならないところです。
- ・ 「参加する前」 たいへんそうなボランティア。
「参加した後」 たいへんではあるが、自然保全を行いつつ、自然を楽しむことも目的としているボランティア。



(2) 一番の気づき

- ・ 自分の知らない山奥で植林作業が行われていることと、それに対してたくさんの人が集まっていること、その主催者が植林とシイタケについて熱心に語っていたこと。また、自分に環境問題に関して関心が少ないことに気がついた。
- ・ 様々な年代の人が集まり、同じ作業をすることにおもしろさを感じた。子どもたちと大人の絡みを見て、地域で取り組むことに素晴らしいさを感じた。価値観の広がる、よい研修だった。
- ・ 自分の知らないことを知れたということ。はげ山を10年間であれだけ多くの植物のあるで、それを行ってきた人たちがいることに気づくことができた。そして、山の中にいることが、とても気持ちよく、自然っていいなということにも気づけた。
- ・ 食の面。山菜の天ぷらをあれ程食べたのは初めてだったし、とても自然がおいしいと感じた。また、竹を使って笛を作ったり、紙鉄砲を作ったりなどして昔の遊びを教えてもらったことで、竹一本であんなに遊べることに驚きを感じた。苗木を植えるときに、結構育った木を植えたこと。もっと小さな苗だと思っていたので驚いた。
- ・ 遊歩道の雑草を刈る作業をして、自然と触れ合うことができて良かった。
- ・ ボランティアでありながら、百人以上の人たちが参加していて、自然への関心の深さを思い知りました。あのような山奥であっても、はげ山となってしまっているということに驚いた。こういう活動はもっともっと大きな輪を広げていくべきだと思った。
- ・ 自然を保つためにはやはり人達が協力して守っていく必要があると気づいた。
- ・ 年齢層が幅広かったことが自分の中では驚きでした。4歳の子供、小学生、中学生、大学生、中年の方、高齢の方がいて、みんな自分の仕事や自分のできることを一生懸命していました。
- ・ 自然の大切さ、自然を育てることの難しさ。



(3) 今後つなげていく、もしくは活かしていこうと思ったこと

- ・ 様々なイベントに参加することで、知らない人への思いやりもとても大切なものだと感じた。だから、視野を広げて、身近なこと、些細なことから始めていこうと思った。
- ・ 親子の絡み方におもしろみがあった。親子の接し方に子どもの答えや行動を見ていると、親が子どもを自由に行動させながらも、ちゃんと子どものことを見ていたので、その大切さと、優しさを感じた。また、達人の技術と知恵の広さに驚いた。子どもにとっての「大人」について、考える良いきっかけとなった。
- ・ 笛作りをしている時に、ある親子から笛を作ると言われて、作ってあげられなかったことが、とても悔しかった。積極的に子どもたちと関わらず、笛作りをしなかったことによって、作り方が分からなかった。なので、これからいろいろなことに積極的になっていきたい。そして、いろいろなことを吸収していきたい。あと、いろんな人に自然の良さを伝えていきたい。
- ・ 今回学んだことが、苗を植える時の鍬の使い方、竹を使った笛・紙鉄砲の作り方、自然の良さ(改めて)でした。技術的な面の鍬の使い方は、もし使うときがきたら使い方をレクチャーなどしていきたいと思うし、笛・紙鉄砲はこれから実際にキャンプで企画にしていきたいと思います。自然の良さを子どもたちに伝えていききたいと思います。
- ・ 子どもたちも結構参加していたが、あまり触れ合いができなかったのが少し残念でした。もっと積極的に行動できればと思った。
- ・ 現地の達人さんから、竹とのかぎりナイフ1本で、笛や鉄砲などの遊び道具の作り方を学ぶことができました。先人の知恵には本当に驚かされました。今回学んだことは、これからのボランティア活動野中でも子どもたちに伝えていく、そして一緒に遊ぶことができるし、自然の大切さも同時に子どもたちに教えていくことができるのではないかと思います。
- ・ 現地の達人さんたちが竹を使って、簡単に笛を作ったりすることができ、最近の小さい子どもたちはあまり自然を感じるが少ないと思うので、自然のものを使って何かをすることは、小さい子どもたちにも良い経験ができると思うので、様々なボランティアでそういったことができればいいなとおもい、良い収穫ができました。
- ・ まずは野草を使った料理を趣味の登山に使っていきたいと思います。野草を使った料理で自然を堪能していきたいです。これをきっかけに薬草についても覚えていきたいと思います。竹工作は今後の活動にも使えるので、ここで習ったことを参考に竹工作を工夫していきたいです。鎌の使い方の要領がだいたいわかったので、地元の町内会の掃除で役立てたいです。
- ・ 環境に対する意識を変えていこうと思いました。また、紙や袋や割り箸などの資源の使用をなるべく控えなくてはならないなと思いました。

(4) 自由感想

- ・ 久しぶりに体力のいる作業をしたのできつかった。けれど、ご飯のおいしさも久しぶりに感じた。日帰りの活動だと気軽に自分の知らない知識を知れることに気がついたので、機会があれば参加していこうと思った。
- ・ 子どもや親、現地の達人など、様々な人と触れ合えたのでおもしろかったし、刺激になった。スタッフして、できること、与えられること、ほめられること、しかること、etc。様々な要素の見直しをする良い機会になり、さらなる自分を高めていきと思う。
- ・ 一日を通して、何よりもすごく楽しかった。木を植えたり、草を刈ったりすることはきつさもあったけれどとても楽しかった。知らないところでこんなに楽しくて、いろんなことに役立つことをしているということが分かったので、今後もできる限りいろいろな活動に参加していきたい。
- ・ 野鳥観察や昆虫観察をしなかったのに少し適さを感じ、驚いたのと結構残念だった。植林作業が初めてだったのと、それに高校生もいて、そういう参加者もいるのかと思ったのと、子どもの参加者もいて、子どもが自然に触れているのがとてもほほえましく思えた。
- ・ 今回初めて参加して、正直疲れたが、そのぶん学んだことが多かった。自分にとって人とのつながりや自然の大切さを改めて実感する機会となったのでよかった。
- ・ 参加者の多さには本当に驚かされました。何となく参加した自分も、もっと自然についてしっかりと意識を持って行動していくべきだと思いました。子どもたちが笛作り始めたときに、すぐに先輩が対応して、子どもがのこぎりなどを使っても危なくないように、しっかりと一緒に作業をしているのを見て、自分もそうなれるようにこれからの活動を経験していく中で、子どもたちにしっかりと優しく接していけるようになりたいと思いました。竹笛も自分1人でしっかりと作れるようにします。
- ・ 現地にいていろんな経験をして、普段は感じることでできないことができて良かったです。前から自然が好きなので、鳥の鳴き声とかも聞いて、体全体で自然を感じられてうれしかったです。
- ・ 現場についたときは、人数の多さと年齢層が幅広いこと、テレビ局の方が来ていたことに驚きました。もっと大人の方が多いと思っていましたが、小学生、中学生もいて、すごいと思いました。植林、菌打ちは全員でしていくものと思っていましたが、人数が多くなったとのことで分担作業になってしまい、いろいろ楽しんだ後に森の大学の作業があるのかと思い残念でした。自分は鎌で遊歩道の草刈をする係りでした。何人かは植林をしたようなのですが、自分は出来ず正直植林がしたかった。遊歩道の確保は非常に大切なことなのでできる限り草を刈りました。草刈が終わった後、久留米大学の駄田井教授から筑後川流域連携の生い立ちや森林の現状などについて聞かせていただきました。地域のことを思って活動をされている方の熱い思いに感動するとともに、何かをやり遂げるのに動き出すことや周りとの交流を持つことについても考えさせられました。昼食のてんぷらはかなりおいしかったです。料理も工夫次第ということも学べ、自然の恵みも堪能できて良かったです。途中の日田市内の視察も楽しかったです。温泉やラムネ工場、そして筑後川視察。福岡市の飲料水の3分の1程度をこの川がまかなっているということで、山が水源の森であることにあらためて感心しました。川で石投げなどもして数々の思い出ができました。

た。帰りの車内ではネイチャー（サークル）の現状や今後に今日の体験をどのように生かしていくかについて話し合いました。最近はあまり深く話していなかったので、お互いの考えを言い合えてよかったです。今まではネイチャー以外でほとんど活動したことがなく、そこで学ぶことについて考えることはありませんでした。ネイチャー以外の活動でもネイチャーや日常につなげられるものもあるので、参加したときは一回一回を大事にしていきたいです。

反省は、後輩に示しのつかない発言をしたことです。言い訳しないようにその都度自分にできる最大の選択をできるようにしたいです。今後は、小さいできごとでもそれに意義を見出して、先につながるようにしていきたいです。

- ・ 研修で知り合った人に竹を使ったおもちゃ作りを教えてもらい、とても勉強になりました。ナイフやノコギリや鎌などの道具の使い方も教えてもらい、自分は使い方がよくわからなかったのが、それも勉強になりました。今の生活では、ノコギリやナイフを使うことは少ないが、昔の人の生活では当たり前だったので、今の生活の便利さがわかりました。今の生活では便利への要求が強すぎるため、自然を壊してばかりなので、植林という経験をさせてもらったことにより、自然を育てることの苦労と意味の大きさがわかりました。参加してよかったです。

